

十月一日

いくつかのプロジェクツの打合わせの後、午後椅子のスケッチ。椅子のデザインが面白いのは完全に手の中にコントロールできるから、要するに自分が全部出てしまつてこと。逃げ隠れできない。スケッチをすすめてゆくと次第に自分の本体が現われてくるのがチョツと恐いね、コレワ。自分のスケッチを椅子の名作世界の数々と恐る恐る参照してみると、一番似ていたのはブルーヴェの椅子だった。どういう事なんだろうねこれは。イームズとは全く違う。イームズの椅子はやっぱりアメリカの椅子だ。典型的なアメリカンスタイルである。技術によつて素材の可能性を引き出すのだが、それ以上のものが引き出せていないような気がする。それ以上のものとは何か？なんだろうね。物神性かな。ハンス・J・ワグナーの椅子にも物神性は無いが、フォルムに変な魔者がすんでるような気がするな。それもイームズには無い。何がよいのかナア。

十月二日

朝、三つの椅子のデザインをスタッフに渡して厳密な作図におとしてもらうように頼む。全てアルミの単一素材のもの。午後、ミネルバの宮本茂紀さんに電話してアドヴァイスを依頼する。宮本さんは日本一のモデラーで倉俣史朗も世話になつていた人なんだから、心強い。厳密な寸法など教えてもらえればと思う。本格

的な試作をしてみて、良ければ商品にしてみよう。鈴木博之にあげるのはまだ考え付いていない。アルミじゃないと思うので、もう一度真鍮と何かを組み合わせてみるか。あらぬ事を口ばしたのを反省しているが、お蔭様で椅子のデザインができるようになった。私の後半生は反省の半生だなコレワ。

佐藤健から電話がかかつてきて、今日東大病院で結果が出て、肝臓のガンはとりあえず退治したと言う程ではないけれど、静脈内からメスを入れた手術で硬直状態にミイラ化できたそうで、長生きできそうだと言っていた。予定通りシルクロードの旅には出るとの事。医者も行つて良いと断言したらしい。これで酒さえ断れば長生きできそうだと、そんなに長生きしたくない様な口振りであつた。でも本当に良かったよ。夕陽のガンマンなんて強がつていたけれど、誰がガンになってガンマンだとかガンダーラだとか笑つてられる奴がいようか。

ともかく、これで私のにわか仕立ての仏教入門もひとまづ休めることになつた。アト長くて5年だとおどかすもんだから、こちらからアワて勉強してやろうと思つたのであつて、アト二〇年も生きちゃうのだったら、無理して急ぐこともないのだ。佐藤健も、本当にホツとしただろうが、折角ガンマンとしての優位を確保しようとしていた矢先のコトで、ガンマンからいきなりタダの人になつてしまつたのだつた。しかし、今度のことでは俺も何だか色んな意味での学習をしたことだけはたしかだ。マアだけれども人間てのはいくら学習に学習を重ねても一向にかしくくならないところが、まことにおかしい。色んな体験を重ねても人間の本性が成長しないなら、色んな体験も、それに伴う学習も、してもしなくても同じ事であるのではないか。もしかして、おシヤカの野郎の悟り、解説つて、こんなことだつたのかと思う一日であつた。

日本の思考の中枢にあると思われる本覚思想は私の内にも確実に  
巣喰っている。

十月三日

フト気が付いた。バウハウス建築大学のヨルク・グライターが  
来日する度にそしてワイマールで私にくれるプレゼントに妙な一  
貫性があるのじゃないか。ニイチエの石膏像、イビツな卵形のモ  
ノ入れ、そしてカラヴァッジョの豪華本。全て破壊に関連ある人  
物でありモノだ。グライターとはいつも私の語学力のせいもあり、  
シンプルな英語で話し合ってきた。だから私の考えを伝えるのに  
も簡単な言葉でしか伝えられていないわけで、そんな事もあつて  
グライターの内に私に対する強くデフォルメされたイメージが胚  
胎しているにちがいない。自分にそくして考えてみれば、一度  
入った先入観は消える事がない。これから先もグライターはそん  
な観念を持って私に対するのだらう。遠い国に直線的な理解者を  
得たような気もするのだが。

今日は快晴で陽光がドカーンと二階の空間に指し込んでいる。  
月並みだけれど気持ちよい。午後思い立って星の子愛児園現場へ。  
一階のコンクリート床に打ち込んだ幾つかのオブジェの様子と柿  
渋コンクリートの出来不出来が気になって。マアマアの出来だつ  
たが仕上げはデリケートに手をかけぬと駄目だ。繊細すぎると失  
敗するし、荒っぽいままでもうまくない。日本の書の感じだな。  
あのムラをうまく生かさなくてはいけない。

椅子のデザインに興が乗って、今日で四つのアイデアがすすめ  
られている。どうせやるなら異常な数に辿り着かせてやろう。